

10代の声

生きていくため
何が必要か学ぶ

高根沢町 小松 宙央
(中学2年 14歳)

◇僕は、夏休みに海外派遣でフィジーに行きました。フィジーでは、人間が生きていくためには何が必要なのかを改めて知ることができました。

◇日本は他の国より発展していてとても便利ですが、フィジーはそうではありません。けれども、いくつかの家族で一緒に支え合って暮らしていました。また、僕が困っていたときには、僕が話せる少しの英語を聞き取って理解し、助けてくれました。

◇今はスマートフォンなどのように便利な物があり、何でもできてしまいますが、フ

ィジーの人のように豊かな心を持ち、みんな同じ仲間として支え合っていく暮らしの方が、よいのではないかと思います。

食品ロス削減へ
家庭でも努力を

日光市 齋藤 美和
(高校3年 18歳)

◇食品ロス削減のための試

みが行われているという記事を読み、一部地域や企業だけでなく多くの人が認識しなければならぬ問題だと感じた。

◇年間の食品ロスの量は東京都民の1年間に食べる量に匹敵すると推計されている。

これだけの量があれば、困窮世帯に食品を配る活動以外にも、ホームレスや何らかの事情で毎日の食事に苦勞する人

を減らすことができる。日本にも食べ物に困っている人がいる中で、飽食や食べ残しなどで大量の廃棄物が出ていることは、とてももったいないことだと思ふ。

◇企業の売れ残りだけでなく、各家庭で使い切れなかったり捨てられたりした食材も集めれば大変な量になるだろう。食材を上手に使い切る、余計に買わないという個々の意識も集まれば大きな力になるかもしれない。その力の一つになれるよう私も買物や料理の時に気を付けていきたい。

【投書】 340字、縦書き。原稿を添削することもあります。

【カット】【絵手紙】はがきに季節感のある作品を黒色かカラーで。掲載は実名とします。二重投稿は禁止、原稿は返却しません。採否の問い合わせはお答えいたしかねます。掲載分には記念品を送りま

す。住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業(無職の方は元職も可)、電話番号を明記の上、〒320-8686、宇都宮市昭和1の8の11、下野新聞社読者室読者登壇係へ。
【ファクス】028・621・4444
【Eメール】dokusya@shimotsuke.co.jp